

**医学部・医学研究院**

I	研究の水準	.....	研究 6-2
II	質の向上度	.....	研究 6-4

## I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 欧文原著論文数は、平成22年度の749件から平成27年度の983件となっている。また、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の学会賞等の受賞件数は、平成22年度の47件から平成27年度の79件となっている。
- 第2期中期目標期間の科学研究費助成事業の採択状況は、平成22年度の184件（約9億4200万円）から平成27年度の282件（約9億4300万円）となっている。

以上の状況等及び医学部・医学研究院の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学術面では、特に医化学一般、ウイルス学、感染症内科学、救急医学の細目において卓越した研究成果がある。
- 卓越した研究業績として、医化学一般の「解糖系の遺伝的制御メカニズムに関する研究」、ウイルス学の「ウイルスのエンベロープ蛋白質が担う機能の構造基盤」、感染症内科学の「ウイルス糖尿病の発症機構とその制御に関する研究」、救急医学の「日本の病院前救護活動の質を確保するために」がある。中でも「解糖系の遺伝的制御メカニズムに関する研究」は、平成27年に Herbert Tabor Young Investigator Award を受賞している。
- 社会、経済、文化面では、特に感染症内科学の細目において卓越した研究成果がある。

- 卓越した研究業績として、感染症内科学の「ウイルス糖尿病の発症機構とその制御に関する研究」があり、糖尿病原因ウイルスに対するワクチン開発による糖尿病の発症予防につながることで期待でき、成果の一部はマスメディアで広く報道されている。

以上の状況等及び医学部・医学研究院の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、医学部・医学研究院の専任教員数は 216 名、提出された研究業績数は 47 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 46 件（延べ 92 件）について判定した結果、「SS」は 2 割、「S」は 7 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 15 件（延べ 30 件）について判定した結果、「SS」は 1 割、「S」は 5 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 欧文原著論文数は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の年度平均650件程度から第2期中期目標期間の年度平均872件へ増加している。また、インパクトファクター30以上の雑誌に掲載されている原著論文数は30件に達している。
- 研究資金の採択件数について、平成22年度と平成27年度を比較すると、科学研究費助成事業の採択件数は184件から282件へ、受託研究の受入件数は41件から105件へ、それぞれ増加している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学会賞等の受賞件数は、第1期中期目標期間の年度平均約40件から第2期中期目標期間の年度平均約65件へ増加している。
- 感染症内科学の「ウイルス糖尿病の発症機構とその制御に関する研究」の成果の一部は、マスメディアで広く報道されている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。